

神奈川県議会議員
自民党神奈川県第4選挙区支部支部長

永田 まりな

MARINA NAGATA



過去3番目の規模！

神奈川県の令和7年度一般会計、総額2兆2158億円

神奈川県の令和7年度の一般会計の総額は2兆2158億円、過去3番目の規模で、前年度当初予算に比べると、5.3%増加、特別会計等を含めた総額は4兆6637億円で過去2番目、7年連続の4兆円台となっています。

この予算の中から、永田が取り組み、来年度新しく事業化されることをいくつかご紹介します。

永田の取り組み
事業化されます！

- ✓ フリースクール等に通う子どもへの通学支援→約3,000万円
- ✓ 医療DXの推進(横須賀三浦地域及び周辺地域等での患者情報の共有化の推進など)→約32億円
- ✓ メンタルヘルスに課題のある妊産婦への支援→約790万円
- ✓ ベンチャー企業への支援→約3億4,000万円
(HATSU鎌倉等において、新たに資金調達や行政の連携を支援、市町村と連携した支援ネットワークの構築、一元的な情報発信)
- ✓ 災害時避難対策の強化→約6,600万円

この中でも特に、フリースクール等に通う子どもへの通学支援については、これまで当事者のご家族の方々からお話を伺いながら、議会で繰り返し提言してきたものです。県が市町村を支援するという事業決定を受け、鎌倉市でもついに予算化の運びとなりました。鎌倉市の児童生徒1人あたりの補助金額は、月ごとの利用料等の1/3の額で上限1万円。(100円未満の端

数は切り捨て)月の途中で通所、退所した場合も同様です。

様々な生き方を社会が受け入れ、一人ひとりが未来を諦めず暮らせるよう、これからも目の前にある喫緊の課題から、中長期的に腰を据え取り組む課題まで、丁寧に地域の声を聞き活動して参ります。

逗子海岸花火が盛大に開催されました！

5月下旬、初夏の訪れを感じる心地よい夜、逗子海岸で開催された「逗子海岸花火大会」に行ってきました。夕暮れとともに空の色がゆっくりと変わり始め、波音とともに聞こえる屋台の呼び声に胸が高鳴ります。

午後7時半、打ち上げの合図とともに、大輪の花火が夜空に咲きました。水面に映る光の美しさと、身体に響く音の迫力が相まって、心が震えるような感動を覚えました。特にクライマックスの連続打ち上げは、空一面が金と銀の光に包まれ、観客から大きな歓声が上がりました。海と花火のコントラストが印象的な、写真では決して伝えきれない美しさ…。友人たちと砂浜に座りながら、夏の始まりを実感できた素晴らしいひとときでした。

また来年も、この感動を味わいに逗子に来ていただきたいですし、この賑わいを支えていけるよう私も働いていきます。



令和7年2月定例会での一般質問

- ㊦ こども誰でも通園制度の円滑な実施に向けた保育補助者の活用について
- ㊦ 地域の特性を踏まえた災害時の孤立地域対策について
- ㊦ 外国人観光客の来訪を地域経済への還元につなげる取組について
- ㊦ 障がい者の歯科診療体制について
- ㊦ 障がい者の地域生活を支えるサービスについて
- ㊦ 公立中学校における休日の部活動の地域移行について
- ㊦ 県立学校の老朽化対策について
- ㊦ エスコートゾーンの設置状況と今後の設置方針について

受診患者は年々増加傾向！

当事者目線の障がい福祉向上を目指して

本件はこれまでずっと取り組んできましたが、今年度予算化はされていないという経過も踏まえご紹介します。

通常の歯科診療より困難性が高いとされる障がい者の歯科診療は、一般の歯科診療所に対応する一次診療、一次診療では対応困難な歯科診療を担う二次診療、歯科大学の附属病院等で高度な歯科診療を実施する三次診療があり、このうち二次診療は、各地域の歯科医師会等の運営により、集約された人員と設備を備えた施設で実施されています。

県は、政令市を除く県所管域の5つの歯科診療圏において、最低1箇所の二次診療施設が必要であるとの判断から、各二次診療施設に補助等を行う市に財政支援を実施してきました。

鎌倉市は、藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町と同じ歯科診療圏に属し、この診療圏には藤沢市内に二次診療施設が設けられている一方、鎌倉市内にも、市歯科医師会が運営する鎌倉市口腔保健センターがあり、専門性の高い障がい者歯科診療を実施していますが、各歯科診療圏に1箇所のみ補助という県の方針のため、財政支援の対象とならず、二次診療施設に準じる施設という扱いに留まっている実態があります。

鎌倉市口腔保健センターを受診する障がい者は年々増加傾向にあり、令和5年度には延べ5百人を超えました。センターを運営する市歯科医師会からは、市からの委託金に制限がかかり、必要な人件費の確保が出来ていないという声を聞いています。また、藤沢とは別に接している栄区、戸塚区からの患者もあり、横浜市のセンターから遠いエリアにおける二次診療施設の役割を果たしている現実があります。今後患者数のさらなる増加が予測される中、現在より高度な薬物行動調整法の一つである静脈内鎮静法を行い、医療の幅を広げる必要性もあり、診療内容の充実に困難を抱えているということです。

さらに、昨今の人件費や物価高騰の影響で、運営上の負担も増大。県所管域内には他にも、専門性の高い障がい者歯科診療を実施しているにも関わらず、二次診療施設に準じるという扱いで、県の財政支援を受けられない施設があり(逗葉もその一つ)同様に運営上の困難さを抱えていることが懸念されます。

同一の歯科診療圏とは言え、交通網や生活圏の違いもあるため、二次診療施設が各歯科診療圏内に複数あれば、移動が困難な障がい者も受診がしやすくなり、当事者目線の障がい福祉の向上につながると考えます。県は障がい者の二次診療施設の充実に向け、今後どのように取り組んでいくのか、見解を伺いました。

回答... これまで県は、二次診療施設を、県所管の各歯科診療圏に最低1箇所確保するため、施設に対し運営経費の補助等を行う市町村へ、財政支援を行ってきた。そうした中、歯科医師会からは、二次診療施設の患者数が増加している現状などを踏まえ、歯科診療圏内にもう1箇所、県の補助対象となる二次診療施設を増やすことや、さらなる補助の増額について要望がある。それらを受け、県は、歯科医師会と継続的に意見交換するとともに、患者の増加が進む市町村から、障がい者歯科診療体制の充実の必要性についてヒアリングを行った。その結果県は、歯科医師会や障がい福祉の関係団体などで構成する「障害者歯科医療推進協議会」で議論を行い、補助対象となる二次診療施設の増設などを検討していく。(黒岩知事)

永田からは、障がい者の歯科診療における二次診療施設の果たす役割の重要性を鑑み、市町村や歯科医師会などの関係機関と連携し、二次診療施設の増設と財政支援も視野に入れながら、障がい者が身近な地域で歯科診療を受けられる体制の構築に取り組んでいくことを強く要望しました。全ての方が安心して地域で暮らしていくため、これまでにない医療圏に2つ目の二次診療施設創設を目指し、今後も粘り強く提言を続けていきます。



1983年2月19日生まれ42歳 七里ガ浜在住
聖路加幼稚園 ~ 鎌倉市立七里ガ浜小学校 ~ 私立北鎌倉女学園中学校
神奈川県立鎌倉高校 ~ フェリス女学院大学卒業

2013年 鎌倉市議選初当選、2017年 鎌倉市議選2期目当選
2019年 神奈川県議会議員初当選、2023年 神奈川県議選2期目当選
厚生常任委員会、安全安心・未来環境特別委員会所属
自民党神奈川県副幹事長 公式LINEで県政情報など随時発信中!

「永田まりな」公式LINE
友だち登録はこちら

